育てあい、育ちあう

**広報**　NO１２

# わかば

## ２０２３年秋号

（２０２３年１１月２８日発行）

**社会福祉法人わかば会**

盛岡市西松園３丁目１９－６
発行責任者　鈴木　禮子
☎：０１９－６６１－３１０３
fax: ０１９－６６２－５１２１
https//www.wakaba-kai.or.jp



## 法人の理念

＊ 社会福祉法人わかば会は、子どもの人権を尊重し保護者と協力しながらその健やかな成長のために尽くすとともに、保護者が安心して子どもを預け働ける環境づくりに努めます。
＊ 未来の主人公となる子ども達の権利を尊重し、豊かな乳幼児期を保障することを基本とし、保護者の皆様と一緒に保育を創っていくことを大切にしてまいります。
＊ 子どもが本来持っている能力を引出し、豊かな感性を育み、一人ひとりが仲間の中でゆっくりじっくりと自分を育てていけるような保育環境づくりに努めます。
＊ 子育て支援や地域福祉の向上を目指し、地域の子育ての拠点となるよう努めます。

## 法人運営施設

■わかば保育園　■本宮保育園　■うえだ保育園
■北松園風の子保育園
■宇宙学童クラブ　■ 第二宇宙学童クラブ

# お家の人と一緒でうれしいなぁ！

## 実りの秋満喫

１０月は実りの秋、そしていつもの散歩コースは秋の恵みに溢れる季節です。各保育園では子どもたちが楽しみにしている保護者と一緒の行事を多彩に取り組みます。お家の人と一緒の子どもたちは特別に笑顔がはじけます。

### 秋の自然を歩こう会

１０月２０日（金）、完全復活で「秋の自然を歩こう会」を行いました。お家の方は平日にも関わらず５２名余の方が参加し賑やかな「会」になりました。

４．５歳児は、保育園からひょうたん池（緑の里近隣公園）の山道を抜けて小鹿公園まで歩き秋の自然を満喫。目的地の小鹿公園でどんぐり拾いやリスが食べた松ぼっくりの『エビフライ』をたくさん見つけて、お散歩バッグの中は秋のお宝でいっぱいになりました。

０歳から３歳児は、ホールで歌やリズムで楽しんだ後、それぞれ園周辺のお散歩コースへとでかけました。

園庭では、給食さん特製の「せんべい汁」がいい匂いのする頃にみんな元気に保育園に戻ってきました。

お昼ご飯は、保護者手作りのおにぎりとせんべい汁でしたが、大きなお鍋３個分のせんべい汁はあっという間に空っぽになるほどの大好評でした。

食事の後は、保護者会主催のビンゴ大会で盛り上がり、心も身体もあったかくなった「歩こう会」でした。（風の子保育園）

親子りんご狩り！

わかば保育園バザー

### 保護者と共催のバザー

１０月２１日、４年ぶりの開催となったバザーは、経験者も少なく「どんなイメージで行ったらいいのか？」と悩みもありましたが、例年より規模を小さくして開催しました。

ホールに並んだお店には、保護者会によるポップコーン、学童クラブはじゃがバターや綿あめ・ゼリー、保育園は炊き込みご飯やパウンドケーキなどが並びたくさんのお客さんで大賑わいでした。

準備から販売まで大忙しの保護者の皆さんは、それぞれ交流を深め笑顔あふれるバザーとなりました。（わかば保育園）

収穫祭

親子で遊ぼう会

# うんとう会

運動会は、一人ひとりが成長を実感し集団としての高まりが感じられ、後半の保育へ向かう力となる節目の行事として取り組んでいます。
年長児は輝かしい姿をみんなに見せ、小さいこどもたちはその姿に憧れ「すごいやってみたい！」と意欲をもちます。「わかばの保育」より

5歳児・虎舞

## 大きいクラスのとりくみ

うえだ保育園運動会は、開園以降初めて全クラスが園庭で保護者の参観人数の制限もなく行われました。

ひかりぐみは忍者の修行で川わたりやキャタピラの術など、お友達と一緒に楽しみました。

つばさぐみは憧れだった竹登りに挑戦です。緊張で手が滑ってしまうこともありましたが、クラスの仲間の応援を力に変えて頑張りました。

たいようぐみは竹馬、逆上がり、走り縄跳びに挑戦。何度も諦めそうになりながら、自分を信じ、仲間を信じ、目標に向かっていました。

また、今年度は3年ぶりに親子競技も復活。0・1歳児は競技の中に取り入れ、2・3歳児はふれあい遊び「バイソン」、4・5歳児は「親子ソーラン」を力強く表現しました。

今年の運動会は保護者の方にも参加いただき、皆で取り組んだ運動会になりました。「うえだ保育園」

4歳児・竹登り

3歳児・紅白リレー

3歳児・川わたり）

## 小さいクラスのとりくみ

つくしんぼちゃんは大好きなおうちの方と一緒に参加。普段から楽しんでいるトンネルくぐりや滑り台などを楽しみました。

おさんぽが大好きなすぎのこちゃんは、坂道を上ってお弁当を食べるとバスに乗ると…大好きなおうちの方が待っていて大喜び。一緒にお散歩に出かけました。

そらさんは絵本「とんぼのうんどうかい」のとんぼになったつもりで一本橋渡りやジャンプを楽しみ、最後は怖いギャングこうもりとも仲良しになりました。（うえだ保育園）

2歳児・とんぼになって

0歳児・トンネルくぐり

1歳児・坂道にちょうせん

1歳児・やまこえて

保護者・ソーラン

3歳児・忍者の修行

0歳児・すべり

# 姫神山登山

**姫神山は全行程が急峻な坂で、頂上付近に危険な岩場があります。登山は自分の身体をコントロールし、みんなで声かけあい励まし合いながら頂上をめざします。頂上では仲間と協力し登ったという達成感にひたります。年長児だからこそできることです。「わかばの保育」より**

今年の姫神登山は、わかば会の4園（わかば・風の子・うえだ・本宮保育園）が、偶然、同じ日の登山行となり、時間差で各園が頂上をめざしました。

たいようさんは、憧れの「三角おやま」に自分たちも登るんだと期待いっぱいで当日を迎えました。しかし、山のコンディションは最悪で緊張の中での登山となりました。

子どもたちは、大人の心配をよそに、元気いっぱいに「大きい木」を歌い登山開始。「とりのこえきこえるね」と耳を澄ませたり、「ちいさいひめかみさんはっけん」と三角岩の発見を楽しんだりしながら登りました。

残念ながら頂上からの眺めは見えなかったのですが、「雲の中」の特別感を肌で感じることができました。

下山後、泥で汚れ真っ黒になったズボン姿と「たいへんだったけどたのしかった」という子どもたちの言葉に、行事の意味と子ども達の育ちを実感しました。（本宮保育園）

頂上でヤッホー！！

ざんげ坂

もくもくと進むのみ

一本すぎ

クジラ岩で一休み

てっぺんについたよ

## 宇宙学童クラブ

あんなに暑かった夏が終わり、朝夕の寒暖差が激しく寒さを感じる季節へと変わってきました。日が暮れるのが早くなり公園で遊ぶ時間が少なくなってしまう時期です。

そんな中でも公園に行き遊ぶのを楽しみにしている子どもたち。今年の夏休みは4年ぶりの市連協行事「学童のつどい」が行われました。市内の学童の子どもが県民会館に集まり新入所の子どもを迎える行事です。学童の仲間がたくさんいることに驚き、こんな行事があるんだと気づけた夏休みでした。

長く暑い夏休みでしたが「まほら岩手」での沢登り、ゆぴあすや染物、縁日ごっこなど盛りだくさん。そして、6月環境整備、10月わかばバザーに参加するなど保護者会の活動も始まりたくさん協力していただきました。

これから、6年生の社会体験旅行、冬休み行事、親子レクスケートなど行事がたくさん待っています。

保護者と指導員、そして子どもたちと一緒に協力し、楽しみながら学童の生活づくりをしていきたいと思います。

わかばバザー　いらっしゃい

「まほら岩手」で川遊び

# 文化・芸術の秋

秋は地域や町内でさまざまなイベントがてんこ盛りです。各保育園は、子どもたちに本物の文化・芸術をと取り組みました。コロナ禍でできなかった分、喜びも大きく大好評でした。

**松園地区芸術文化祭**
わかば・風の子保育園が子どもたちの作品を出展

**劇団クスクス**
「ガーびー！ブーたん」と「さるかに合戦」を公演

**大槌の城山虎舞**
本物に圧倒されました。

**ぴかりんコンサート**
ふれあい遊びで大いに盛り上がりました。

「原敬」命日をしのんでお茶会

## 給食室

### 保育園でつくるおやつ
### ショートブレット

材料　（4枚分）
薄力粉　200g
きび砂糖　80g
バター　120g
（ケーキ用マーガリン）
卵　L1個

**作り方**
①小麦粉をふるう　②ボウルに常温に戻したバターを入れ、泡立て器でクリーム状になるまで練る　③きび砂糖を加えよくすり混ぜる　④③に割りほぐした卵をえ加えよく混ぜる　⑤④に①を加えゴムべらで切るように混ぜる。粉っぽさがなくなってきたら手でひとまとめにする。⑥まとまった生地を厚さ1.5cmに伸ばし、幅2cm、長さ6cmにカットする　⑦フォークで模様をつけ、クッキングシートを敷いた鉄板に並べ、160℃に予熱したオーブンで30分くらい焼く　⑧焼きあがったらよく冷ます。

## あとがき

▼今号は「秋の実り」そして「お家の人と一緒に」と保育園の日常を楽しむ内容を取り上げました。

共働きでの子育てがどんなに忙しく余裕のない状況かは想像がつきます。

保育園での保護者と一緒の取り組みは、忙しいお父さんお母さんにとってホッとできるひとときではないでしょうか。子ども達のはじけるような笑顔に心がなごみます。

▼今もっとも心を痛めていることは、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への軍事攻撃です。

すでに1万2000人を越える人々が命を奪われ、うち5000人が子どもだといいます。（11月18日報道）惨状の報道を目にするたび、心がざわめき怒りが込み上げます。

こうしている間にも、女性こどもたちがまきぞえになっています。「一刻も早く戦争を止めて」と願い、声を上げなければと思います。

▼「わかば会広報」は、今号でまもなく4年目になります。各園の情報と法人の動きをお知らせするとしてスタートしましたが、内容的にマンネリ化の傾向は否めません。

ご覧いただく皆さんのご意見をお寄せいただければ幸いです。（礼）

## わかば会の動き

※ 緊急理事会開催

10月7日（土）、第1号議案 理事長の解職について、第2号議案 正職員化について、第3号議案 理事長及び常務理事の選定についてを議題として緊急理事会が開催されました。

第1号議案は、鈴木浩太郎理事長の健康上の問題を考慮し任期途中の解職を承認。第2号議案は令和6年度新採用職員が全員正採用になることから、現在、非正規で働く職員の処遇について協議。矛盾が生じないよう早急に対応することで承認。第3号議案は、新理事長に鈴木禮子氏を選定。常務理事は当面佐藤秀子常務理事1人体制で対応することが承認されました。

※ 2024年度採用職員は正職員として5名の採用が決まりました。

## 鈴木禮子新理事長あいさつ

（鈴木禮子理事長）

社会福祉法人わかば会は、創立42年を迎えました。

今日、「わかば会」は保育内容はもとより規模的にも一目を置かれる法人として評価をいただいており、20年に及ぶ鈴木浩太郎前理事長の功績と尽力に心から感謝を申し上げます。

引き続き、運営の透明性はもとより、民主的な組織づくりをモットーに、また、昨今の厳しい保育環境の改善に向け、関係者の皆さんと力を合わせて任務を果たして参りたいと決意を新たにしております。

どうぞよろしくお願い致します。

## 異次元の少子化対策って？

町内の市道に熊の糞らしきものがあると呼び止められ「クマ騒動」に追われていた最中、知人に呼び止められました。子どもの扶養控除が廃止されていることがとても受け入れがたいとの怒りの声でした。

年少扶養控除（0～15才までの扶養控除で所得税で38万円、住民税で33万円）は、民主党政権時（2010年）に、子育て世帯の経済的負担軽減を目的に実施され、手当月額26、000円支給と引き換えに廃止されました。

ところが実際には手当額は月額10，000円になり、2012年（自民党政権下）からは所得制限が導入され、現在も年少扶養控除は廃止されたままです。

多くの子育て世帯では経済的負担軽減にはならず目的に逆行しているのが実態です。

**「異次元の迷走」では？**

ここ数年「子ども関連の予算を2倍に」という市民運動が広がっています。

岸田首相も自称「異次元の少子化対策」を掲げましたが、本格的に予算措置されたのは高校生まで児童手当を拡充するとし、引き換えに、年少扶養控除と同様に高校生（16～18才）の扶養控除を縮小・廃止するというのです。

子育てにお金がかかりすぎる高校・大学の教育費の重さは、少子化の大きな要因として指摘され続けておりこの度の対応に批判が噴出しています。

想定を上回るペースで加速する少子化にあって、扶養控除の縮小・廃止は少子化対策としては本末転倒であり、まさに「異次元の迷走」とも言える事態ではないでしょうか。

また、長年の懸案となっている「保育の最低基準」の見直しについても厳しい局面を迎えています。

6月に閣議決定した「こども未来戦略方針」で、75年ぶりの配置基準（保育士1人の基準を1歳児では5対1に、4・5歳児では25対1に）の改善が盛り込まれました。

しかし、実施時期が明記されず「最低基準」の改定は先送りされ、条件を満たした施設にのみ補助金を上乗せする「加算」でごまかそうとしています。

税収は過去最高とされその使い方が指摘されていますが、軍事費最優先ではなく、喫緊の子育て支援など国民の暮らしを優先する使い方に改めていただきたい。